

平成 29 年度学校自己評価に対する学校関係者評価

1 会議日時及び評価者

日 時：① 平成 30 年 5 月 26 日（土）11：30～12：30 ② 6 月 4 日（土）16：00～17：00

評価者：① くすのき会（中高一貫部保護者会）役員 2 名 ② 平成平成 29・30 年度生徒会役員 2 名
③ 同窓会会長 1 名（メールにて評価） 総計 5 名

2 評価内容

【概要】全体の評価内容はほぼ適当であると考ええる。

【評価項目】（評価について学校からの補足等は◎、評価者の意見は○とする）

1) 生徒が主体的に学ぶことができる授業への取り組みをより充実させる。生徒の自己実現に向けた支援体制をより強力に組織化する。

◎学校は授業が基本である。生徒には、授業や行事等様々な活動を通して、考えて行動できるようになってほしいと考えている。

学び合いについては、それで学力は身に着くのかという疑問が常にあり、解決がつかないのが現状である。欧米では議論の習慣が根底にあるが、日本はまだそこまでいかない。知識があつてこそその議論である。どの程度知識を教えるか、議論や探究活動などで力をつけさせるのか、そのバランスは永遠の課題である。30 年度は本校が学園研修の担当なので、授業を見直す良い機会でもある。先生方が研修できる態勢を作りたい。時間的余裕が必要なので、部活動などの活動も工夫が必要である。

○本校は、他校に比べ生徒がやりたいことをやらせてもらえる学校だと思う。行動し、皆に発信することによって、ものごとを変えて行けると考える生徒が増えていると思う。様々なコンクール等の紹介があり、外へ出る機会を作れる。先生方からの提案もある。クラブも生徒の意見を容れてフレキシブルな活動形態をとっている。タイプの異なる先生方がいて、誰か一人は尊敬できる先生がいる。

○生徒の自己実現にむけた支援体制については、個人的にはあるが、同窓会役員をやりたいと思えるほどのものがあつた。

○授業では、最近は映像や電子黒板を使う機会が増え、その科目に興味がなかった人も興味を持って取り組めるようになった。先端はグループワークが多いので、自分の考えを述べる機会が増えて良い。

○ただ、質問に丁寧に答えてくれる先生とそうでない先生がいる。もう教えたのだからそれを基に自分で考えろというタイプの先生だ。

○習熟度別授業のクラスは、本人が選ぶが、背伸びして上のクラスに入り、合わずに悩む場合がある、一方ついていけなくなってしまうことを恐がり、無理をしない選択をする場合もある。アドバンスとベーシックの内容解説だけではわからず、両方のクラスの人数割を聞いて、自分の成績と照らし合わせてクラスを選択した人もいる。演習と講義の割合を聞いて自分に合うほうを選ぶ人もいる。

○挑戦で自信を持つケースもある。挑戦することは大切で、後は誰が後押しするかだ。

◎習熟度別授業のクラスは、基本は本人に選択させている。学年でミスマッチと考えた場合には根拠を示して指導している。その生徒に合ったことをやらせるのが大切だ。だが、6 年生に面談するともう少し無理すればよかったという声を聞く。特に英語に多い。

次年度の入学者からは、一貫・先端のコース分けは 4 年生までとし、コースのネーミングも教育内容を明確にするものにしたいと考えている。

2) 探究テーマ・フィールドワークのより効果的な実践を研修し計画する。

◎ 探究については、形骸化させずに、行事も学年に合わせながら取り組んでいきたい。

最近の若い人は保守的で、指示待ちが多いように思う。スクラップド・ビルドの精神が欲しい。

「やらされた」感の中ではものごとは前に進まない。

昨年度から 5 年生の希望者が探究活動を継続するようになり、充実した発表が増えた。

○探究テーマは面白い。子供の中学受験の際、他校も見たが、アクティブラーニングと言っても学校の取り組みとして咀嚼できていないと思うところが多かった。本校は、「探究」と銘打ち、大人にもできないことをやっていると本当にできるのかと最初は思ったが、できている。哲学対話なども同時に取り入れて、学校がやりたいことが見える。同じクオリティを全員に期待するのは難しいだろうが、根気強く指導することが必要だろう。早い段階でものごとが多面的であることに気づく。ここで学んだ意味は、社会人になってみないとなかなかわからないが、きちんと取り組んできた生徒は「使える」大人になることだろう。

○子供3人が開智にお世話になっているので、「仮説」「実証」が家の中でも飛び交っている。子供によってそれぞれ違う成長の仕方をしているが、多様性が認識できているのが素晴らしい。

○卒業し、社会に出て、その探究テーマの取り組みこそが行動規範になりえると感じる。国の経済支援策としてもPDCAサイクルを利用した経営支援まである。そうした社会での必要性を説いて、生徒それぞれの探究テーマを持つことが大事だと思う。

○1～3年生のグループ探究では、自分の希望が通らず、やる気をそがれることもあるようだ。極端な意見を言うのが恥ずかしいという思いもあるのだろう。

◎自由に意見を言い合えるように「哲学対話」を入れている。グループ探究の場合、指導教員の目から見て、より発展すると思われるものを薦めたのではないか。生徒達は無難なほうを選ぶ傾向がある。ただ、なぜそのテーマにしたのか、きちんと説明しないと、他のテーマを提案した生徒には「やらされた」感が芽生えるのだろう。お互いの意見を尊重させながら、考え、智慧を出し合うことを習慣化させることが大切だ。話し合いの指導が教員の課題である。

○哲学対話は授業にはあまり反映されることはないと感じるが、話したことの無い人と話せ、他の人の考え方が新鮮に感じられる。普段考えないことを考える良い機会となる。

3) 生徒が互いの人間性を尊重し適切に対応できる人権意識を養う。(生徒の自主性を育成する。)

4) 災害時に備え危険回避の行動計画立案・訓練を実施する。

◎3) 4) に関しては、まとめて本校の生徒指導についてご意見をお伺いしたい。

○学校と保護者、先生と生徒の距離がとても近いと思う。生徒も親に相談しながら、明日先生にも相談しよう、という言葉が自然に出てくる。ここまで学校に見ていただいているという安心感がある。

○適切な距離感を保っていると思うが、最近は保護者の価値観も多様化している。防災・防犯面でもっと細かいメール配信を希望する向きもあると聞くと、不安を煽り過ぎないことも大切なのではないか。

○初等教育において、必要なことを両親から学ばなければならないと思う。それを学園で行うことには否定的だが、尊敬する先生方の声は伝わると思う。「家庭との連携」につきると思う。

◎いじめについては、何かことが起こった時には組織的に対応ができていると思う。だが予防が大切である。大きな行事の後には生活アンケートなどを実施し、少しでも気になることがあれば面接をし、防止していく。SNSの指導が最も大変で1年生では今年度夜9時以降にはSNSを止めようという指導を打ち出した。

○皆が一斉にある時間でSNSをやめるというのは良い。ケータイやスマホに振り回されなくなる。

○生徒指導は先生によって多少温度差はあるが、トラブルに際しては親身に対応してくれる。だが、親の世代に学校に不信感を持つ人が多いように思う。

◎災害時に備えてのマニュアルはあるが、今年度は避難訓練の日に雷注意報が発令され実施できなかった。現在実施時期を検討中である。